

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報				○成績評価の指標			○成績評価基準(合計100点)		
科目名(英)	航空電子機械工学特別演習Ⅱ (Aeronautical, Electronic & Mechanical Engineering Seminar II)			到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)	
ナンバリングコード	M30302	大分類 / 難易度 科目分野	航空電子機械工学専攻 / 応用レベル				10点	10点	
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 通年						
必修・選択区分	必修						10点	10点	
授業コード	M002504	クラス名	若林研究室						
担当教員名	若林 大輔						15点	20点	
履修上の注意、 履修条件	その他の欄に記載。						15点	10点	
教科書	なし。								
参考文献及び指定図書	受講者の自発的な要望に対し、適宜紹介します。								
関連科目	電磁気学特論A、電磁気学特論B、航空電子機械工学特別演習Ⅰ、航空電子機械工学特別研究								

○授業の目的・概要等	
授業の目的	<p>研究活動を通じ、独立した研究者(大学院修了、修士号取得者)となるための知識と技術を習得することが目的です。特別研究を円滑に進めための必要な技術を本科目で修得してもらいます。</p> <p>特別研究は、今日の社会において幅広い分野で必要とされる数理データサイエンス関連の基礎科目としても重要です。本講義では、データの収集(計測)、データのまとめ・分析、データに対する考察及びプレゼンテーション形式での口頭発表を行います。</p> <p>専攻ディプロマ・ポリシー(DP)の内、特に[産業界に寄与できる柔軟な思考力、実行力、コミュニケーション力、技術力、問題発見・解決能力、リーダーシップと企画実践能力]を本科目を通じて修得してもらいます。</p>
授業の概要	<p>本科目では、研究テーマ決め、研究計画立案、文献調査、予備実験、実験、データ分析・まとめ、担当教員への報告と議論、論文作成、学会における論文発表またはその準備、他の研究者との議論など研究活動全般を担当教員の指導の下で行ってもらいます。</p> <p>研究指導は、航空機械電子工学特別演習Ⅰ、航空機械電子特別演習Ⅱ及び航空機械電子工学特別研究を通じて日常的に行います。</p> <p>研究活動は多岐に渡りかつ同時進行で行わなければならないため、下記の授業計画で詳細に記述することは困難である。研究の進捗状況や学会開催時期などを踏まえ、学生と協議しながら進めます。</p>
授業の運営方法	<p>(1)授業の形式 「演習等形式」</p> <p>(2)複数担当の場合の方式 「該当しない」</p> <p>(3)アクティブ・ラーニング PBL(プロジェクト型授業)他</p>
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

## 020年度 授業シラバスの詳細内容

## 020年度 授業シラバスの詳細内容